

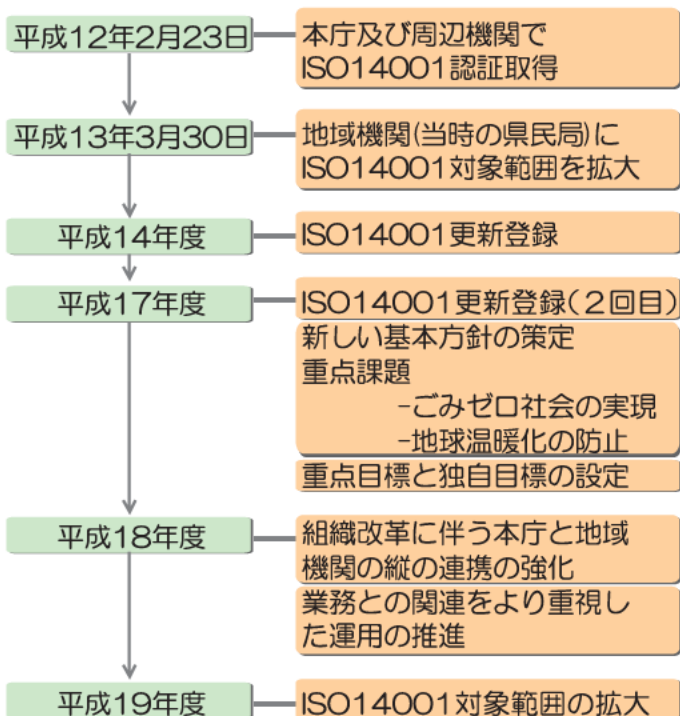


三重県庁の環境マネジメントシステム

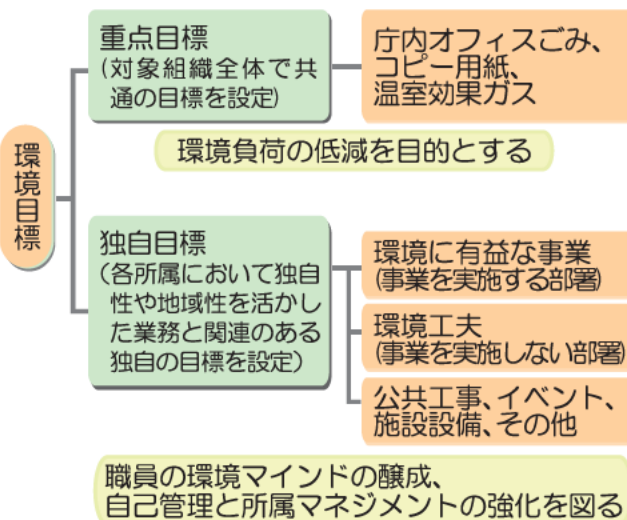
(1) ISO14001適応範囲と環境方針

継続的に環境への負荷を改善し、環境活動を推進するため、本庁及び各地域機関に、環境マネジメントシステムISO14001を導入して取り組んでいます。

認証取得からの流れ



目標設定の体系



ISO14001規格では、組織自らが環境に負荷を及ぼす要素(環境側面)や環境法規制(法的要求事項)を把握・評価して、環境保全に関する運営方針(環境方針)や行動計画(目的・目標)を決めます。



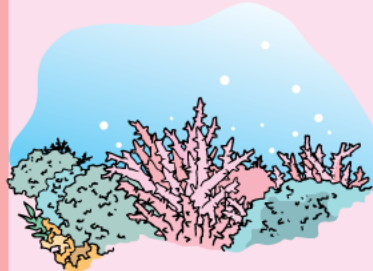
TOPICS 4

2008年は国際サンゴ礁年

サンゴ礁保全を目的とした国際的な協力の枠組である「国際サンゴ礁イニシアティブ(ICRI)」は、2008年を「国際サンゴ礁年」とすることを決定しました。

「国際サンゴ礁年」には、世界各国において、大勢の人にサンゴ礁についての理解を深めてもらうための普及啓発活動や、多様な主体が連携したサンゴ礁保全活動が展開されることになっています。

日本における国際サンゴ礁年のキャッチフレーズは、「知ろう、行こう、守ろう」ですが、多くの人に、まずは、サンゴ礁の価値と危機的な現状に関心をもってもらい(知ろう)、そして、海や水族館などでサンゴ礁を体験してもらい(行こう)、その上で、サンゴ礁の保全・再生の活動に参加してもらおう(守ろう)という意味がこめられています。



環境方針

基本理念

2005年2月の京都議定書発効など、今、まさしく地球温暖化防止をはじめとする様々な環境問題に真剣に取り組んでいかなければなりません。

こうしたなか、三重県は、「県民しあわせプラン」に基づき、県民、事業者、NPO、市町村の皆様との協働により、人と自然が共生する環境への負荷の少ない持続可能な社会の実現に向け、取り組んでいます。

一方、私たちは、事業者としての社会的責任として、みえ行政経営体系のベースである環境マネジメントシステムに基づく活動を基本とし、職員一人ひとりの気づきによる環境行動を進め、環境文化が根づく、「環境にやさしい三重県庁」をめざします。

基本方針

よりよい三重の環境をめざし、地域環境の保全と創造に積極的に取り組むとともに、「ごみゼロ社会の実現」や「地球温暖化の防止」などの重点課題に率先して取り組み、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。

- 1 全ての部局において、三重県環境基本計画に掲げる事業をはじめ、業務の独自性や地域性を活かした「環境目的・目標」を定め、自発的な環境活動を積極的に進めていきます。
- 2 自らの事業活動において、「ごみを出さない工夫」や「地球温暖化の防止」に向け、継続的な改善に取り組みます。
 - ①グリーン購入の基本的な考え方を常に意識し、行動します。
 - ②オフィス活動における環境負荷の大きな要因であるコピー用紙使用量の削減を図ります。
 - ③公共事業について、計画段階から環境配慮を徹底します。
 - ④省エネルギーの推進や新エネルギーの導入などにより、地球温暖化対策を着実に実行していきます。
- 3 環境関連法規等を遵守するとともに、環境汚染の予防に努めます。
- 4 環境方針や環境目的・目標の達成状況等の取組結果をはじめ、環境マネジメントシステムに関する情報について、内外に開示し、誰もが入手できるようにします。



2005年10月14日 三重県知事 野呂 昭彦

INTERVIEW 3

健康福祉部 子ども局子ども未来室 ●主査 山本佳子

健康福祉部の「子ども局子ども未来室」は平成20年度に新設された部署で、子どもたちが自分たちの思いを発信したり、実現に向けて具体的に活動したりするための事業などを行っています。今年は「こどもの思いを聴こうキャンペーン」として、子どもたちから夢や大人にいいたいこと、未来の子どもたちへの約束を募集しました。その中で、子どもたちは環境問題や地球温暖化に関する思いを多く持っており、「自分たちも身近にできることはするから、大人たちも気をつけてほしい」というメッセージが届けられました。今後、私たち大人はこういった子どもたちの思いを受けとめ、できることから始めることが必要だと考えています。



山本佳子